



医療法人東札幌病院

患者支援部だより



第36号

令和3年6月発行

新しい年度を迎えて

東札幌病院 副理事長・病院長 西山 正彦

臨床検査体制について ■ 臨床検査部門長 渡邊 奈々恵

当院の医療安全に関して ■ 医療安全部部門長 小野 薫

着任医師のご紹介 ■ 内科系包括的治療センター長 烏本 悅宏 ■ 内科 渡邊 晃一
■ 外科系包括的治療センター長 長谷川 格 ■ 外科 岩山 祐司 ■ 口腔外科 清水 達哉

病院長よりメッセージ

新しい年度を迎えて

東札幌病院 副理事長・病院長 西山 正彦



新年度が始まりました。当院でも、医師・歯科医師5名、看護師20名を含む計32名の新規入職者を迎え、院内のあちこちで清々しい春の風、希望と期待の風を感じます。新型コロナ禍のなかにあっても、どのような厳しい環境のなかにあっても決して希望、期待を失わず、明るく着実に責務を全うする、その姿勢こそが、本院の掲げる理念、“やさしさ”の医療を実現していくための必須要素であることをあらためて認識しています。

昨年度（2020年度）は、全世界が大きな困難に直面した年でした。本邦でも多くの医療機関が新型コロナの感染爆発により、感染者用ベッドや病棟を確保せざるを得ず、一般医療が大きく制限を受けることになりました。新型コロナ感染症患者等入院受入医療機関ではありませんが、当院も大きな影響を受けました。患者にとって適切な治療・療養を受ける機関/施設がなかなか見つけにくい環境となったことから、当院では可能な限り多くの患者さんを受け入れる方針としました。また、療養中の患者にとって、家族や親しい知人の方の面会は大きな力添えになります。お孫さんとの面会で、病気に向かう気力を増される患者さんは決して少なくありません。さらに、治療の甲斐なく最期を迎える患者さんとそのご家族にとって、ともに過ごせる時間は何物にも代えがたい貴重な時間です。通常の治療と

ケアに加え、厳重な感染防御態勢をとり、早め早めの対応で患者さんを感染から守ると同時に、近親者の方々のご面会やお見取りの機会を可能な限り確保する、そのことに全力を尽してまいりました。まさに懸命の毎日でした。

幸い院内患者さんの新型コロナ発症は一例も無く、外来患者さん、ご面会・お見取りの方々、職員等からの感染もすべて水際で食い止めることができました。ですが、受入れや転院等の調整に手間取ったり、入院や面会をお断りしなければならないことがあったり、ご希望にそえなかつたことがあったのも事実です。それらをうまく調整してこそこの患者支援部ですし、希望にそい可能な限り受け入れることを目指してきた当院です。やむを得ない状況とはいえ、ご迷惑をおかけした医療機関の皆様、患者家族の皆様に衷心よりお詫び申し上げます。

ようやくワクチン接種が始まりましたが、いまも速やかに新型コロナ感染が収まる気配はありません。「防げるものは防ぎ、治せるものは治し、治らなくとも和らげ、常に癒す」、医療の基本は、時代、場所、社会環境いかなるものにも左右されません。新年度の開始に当たり、この基本を再確認し、一丸となってこの難局を乗り切っていきたいと考えております。

臨床検査部の紹介

臨床検査部門長 渡邊 奈々恵

皆様は「臨床検査技師」をご存じでしょうか?最近の話題では新型コロナウイルス検査でPCR検査を行う人としてテレビで目に見る機会が増えたと思います。事の良し悪しはともかくとして、新型コロナウイルス感染症の広がりに伴い、縁の下の力持ちである病院内の検査部門に光があたるようになったことはとてもいい傾向と考えております。一般の方たちにあっても少し身近な存在になったのではないですか。

当院の臨床検査部は、検体検査室と生理機能検査室にわけられており、検体検査室には「臨床検査技師」が5名在籍し、毎日あらゆる検査に対応しています。

そして、生理機能検査室には、「超音波検査士」2名を含む女性臨床検査技師5名と日本超音波医学会認定専門医・指導医資格を持つ医師が在籍し、検査を行っています。

検体検査とは?

患者さんから採取された血液、尿、便、喀痰、組織、細胞、体腔液などの各種検体を、色々な手法を用いて分析・調査し結果を出します。集められた検査結果と画像検査などとあわせて、総合的に患者さんの病態を把握し、病気の進行度・治療効果や予後予測などが行われます。



また最近では、適切な治療法の選択に必要不可欠となりつつある遺伝子検査等も、あわせて行っています。当院では、新型コロナウイルス検査として、従来からの抗原迅速キットと今年2月からあらたにPCR検査(Smart Gene)機械を導入し、両検査法で対応しております。

生理機能検査とは?

皆様も健診などで一度は経験したことがあると思いますが、まずは**心電図検査**です。通常は心電図室で実施していますが、患者さんの状態に応じて病棟や外来処置室に出向くこともあります。心電図だけでなく、負荷心電図やホルター心電図(24時間記録)なども行っています。



また、自覚症状がないことから「沈黙の殺人者」と呼ばれる動脈硬化症ですが、簡単に発見できる動脈硬化検査=**CAVI(キャビィ)検査**もおこなっています。

この検査は、あお向けに寝た状態で両腕・両足首の血圧と脈波を測定します。血圧測定と同じ感覚でできる簡単な検査ですが、得られる情報は非常に重要です。

また近年検査件数が増えてきているのが**超音波検査(エコー検査)**です。超音波検査は、超音波の跳ね返りを利用して、体の内部をリアルタイムでモニターに映し出す画像検査で、腹部・心臓・乳腺等いろいろな体の部位の検査が可能です。

超音波検査は、CTやMRIとは異なる特徴をもっています。

被爆せず比較的短時間で、どこにいても機械さえあれば痛み無く簡便に検査でき、非常に有用な情報を得ることができる点、また入院中であればベッドサイドで施行が可能である点、繰り返し安全に施行できる点なども、超音波検査の魅力です。



心電図や乳腺、腹部超音波検査など生理検査室が担うものは非常にデリケートな部分の検査となりますので、「**女性へ配慮した医療サービス**」として当院では女性技師／医師が担当しております。検査について質問・疑問などありましたら、お気軽にお尋ねください。

以上は実際に患者さんに直接関係する業務でしたが、そのほかに臨床検査部として特筆すべきは、感染対策チーム(infection control team:ITC)としての活動です。

週1回院内ラウンド&ミーティング開催と、月1回感染対策委員会に提出する院内感染状況資料の作成、アンチバイオグラムや薬剤部と共に、当院における抗菌薬スペクトル表を作成し、電子カルテ上に院内共有情報として職員全員が閲覧できるようにしています。

また、職員研修の一環として「細菌報告書の細菌名を知ろう」として院内共有情報に各種細菌名と生育場所、病原性、消毒薬、アウトブレイク事例、経路別予防策、代表的薬剤感受性パターンなどを記載した資料を作成、情報提供をしています。

■ 細菌名

グラム陽性球菌	①黄色ブドウ球菌 ②コアグラーーゼ陰性ブドウ球菌(表皮ブドウ球菌ほか) ③肺炎球菌 ④A群溶連菌、A群レンサ球菌 ⑤B群溶連菌、B群レンサ球菌 ⑥腸球菌
グラム陽性桿菌	⑦コリネバクテリウム属 ⑧リストリア属 ⑨バチルス属 ⑩クロストリジオイデス属(ディフィシル菌) ⑪クロストリジウム属(ウエルシュ菌、ガス壊疽菌) ⑫ノカルジア属
グラム陰性球菌	⑬淋菌 ⑭膿膜炎菌 ⑮モラクセラ菌
グラム陰性桿菌1	⑯インフルエンザ菌 ⑰百日咳菌 ⑱レジオネラ菌 【腸内細菌科】 ⑲大腸菌 ⑳クレブシエラ菌 ㉑エンテロバクター菌 ㉒サルモネラ菌 ㉓赤痢菌 ㉔セラチア菌 ㉕その他腸内細菌(シトロバクター菌、プロテウス菌) 《ブドウ糖非発酵性》 ㉖緑膿菌 ㉗アシネットバクター属 ㉘ステロトホモナス属 ㉙バークホルテリア属
グラム陰性桿菌2	㉚ビブリオ属(コレラ菌含む) ㉛ヘリコバクター属(ピロリ菌、シネジー菌) ㉜カンピロバクター属

⑩ ディフィシル菌(*Clostridioides difficile*クロストリジオイデス・ディフィシル)

生息場所	ディフィシル菌は、土壤、干し草、砂などの自然環境や、ヒト、ウシ、イヌ、ネコなどの動物の腸管、および糞便中に生息している。ヒトの腸管内での生息率は年齢により異なり、新生児からの検出率は極めて高い。成人でも50%以上と報告されている。
病原性	ディフィシル菌は、外毒素として腸管毒のtoxinAと細胞毒のtoxinBがあり、毒素の生産量と臨床病状は相関するとしている。抗菌薬関連腸炎を惹起する代表的な菌種で重症化することも珍しくない。近年、強毒性ディフィシル菌と呼ばれるバイナリートキシン産生株(O27型)が日本でも検出されている。
消毒薬	芽胞を形成するのでグルタラールが有効である。次亜塩素酸ナトリウムも有効であるが、アルコールは無効である。
アウトブレイク事例	基本的に医療施設内で多く発生しており、抗菌薬投与後に発症する下痢症として認識されていた。日本では、2001年に千葉県内で発生した病院感染事例を契機に、院内伝播が再認識され、院内感染菌として注目されるようになった。
感染経路別予防策	接触予防策(罹患期間中)患者自身の腸管内に生息しているディフィシル菌が、抗菌薬投与後に菌交代現象として増殖することで発症する。しかし、医療従事者の手指や環境を介した感染経路によって、本来、保菌していない患者への伝播も考えられる。接触予防策は、基本的に下痢が改善してから48時間まで行う。
薬剤感受性パターン	パンコマイシン、メトロニダゾールに感受性を示すが、クリンダマイシンは84~89%が耐性、近年ではメトロニダゾールも5.5%が耐性との報告もある。2018年ダフクリア錠

以上、日ごろは脚光をあびることなく日陰の部分で黙々と仕事をこなす臨床検査部の活動の一部をご紹介しました。東札幌病院の基本方針の一つである「各専門職がチームで医療を提供する」という方針に基づき、臨床検査部は、今後もチーム医療に積極的に参加していきます。

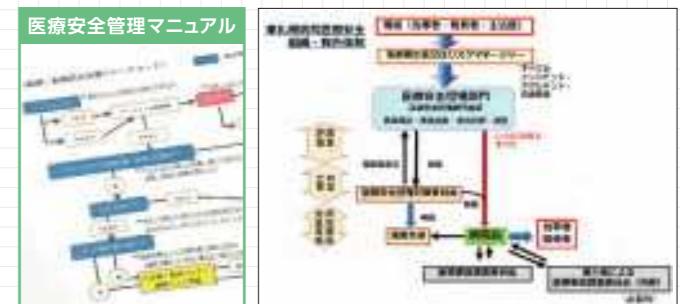
当院の医療安全に関する

医療安全部門長 小野 薫

医療の現場には様々な予測できないことが発生します。どのような処置であっても医療には危険が伴います。様々な職種において、経験を重ねたベテランやルーチンワークでもヒューマンエラー[人為的過誤や失敗(ミス)]は起こります。

当院では、患者さんに安心して医療を受けていただけるよう、事象の再発防止や医療事故を未然に防ぐよう努力を続けております。医療安全管理部門会では様々な職種が在籍し、それぞれの専門性を活かし、意見を出し合いながら検討する場を設けています。

当院では例えば、全入院患者さんに対し「転倒・転落アセスメントスコア」による評価を行い、危険度に応じた予防策を看護計画に立案し実施しています。リスク評価は適宜病状変化に応じ再評価し、転倒の際にはフローチャートに沿って対応しています。院内で起こった出来事が、大きな事故につながらないために、十分に確認し、検討した内容をもとに院内全体の共有とし、再発防止対策や勉強会の開催などを行なっています。



着任医師のご紹介

内科系包括的治療センター長 鳥本 悅宏

初めまして。旭川医科大学病院腫瘍センターから参りました鳥本悦宏（「よしひろ」と読みます）です。東札幌病院では、内科系包括的治療センター長という立場で働かせていただくことになりました。

旭川医大を卒業後第三内科に入局し、消化器疾患の研修をした後、札幌医大第一病理教室で免疫の基礎研究をさせてもらいました。その縁で米国ボストンでの留学の機会を頂きました。大学に戻つてしばらくは主に肝臓病を中心に消化器診療に携わっていましたが、札幌医大第四内科から新たな教授を迎えたことをきっかけに血液・腫瘍内科を担当することになりました。その際、札幌医大第四内科で3か月間勉強させてもらったのが、がん患者さんを診療することの始まりです。ここ10数年は腫瘍センターに移って、より管理的な立場で外来化学療法センターやがん相談支援センターの運営、



セミナーの開催やがん教育などの啓もう活動、がん遺伝子パネル検査の体制整備といったことを中心に活動してきました。

本院は、札幌医大出身の先生が多い病院ですが、札幌医大第一病理、札幌医大第四内科でお世話になった先生方と本院で一緒に働かせてもらえることになり大変心強く思いますし、また大きな縁を感じています。大学での経験を活かしながら、皆さんの方をお借りして本院の理念に沿った発展に貢献できればと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

内科 渡邊 晃一

4月より留萌市立病院より赴任致しました渡邊です。この度消化器内科のほか、血液内科、緩和ケア科、腫瘍内科で働くこととなっております。

これまで消化器内科を中心に勤務しており、急性期が中心であったため当院のように緩和ケ

アに力を入れている施設での勤務はなく至らぬことも多々あるとは思いますが、多くのことを学ぶことができればと思います。

できるだけ患者さんの希望に沿った医療を提供できるよう精一杯務めさせていただきます。何卒宜しくお願ひいたします。

外科系包括的治療センター長 長谷川 格

この度4月1日付けで、東札幌病院に着任致しました。昭和56年に札幌医大を卒業し、外科学第一講座に入局後、何力所かの病院勤務を経て、平成元年4月に前々任地の済生会小樽病院に勤務となりました。以来約29年間小樽にいました。元々小樽は故郷で幼稚園から高校の途中（小樽潮陵高校から札幌西高校転校）まで住んでいました。その後平成29年10月に北海道社会事業協会

函館病院に転勤となり、初の単身生活を3年半ほど送りました。専門は、消化器科・一般外科で特に内視鏡外科を専門にしております。

函館在職中は手術の執刀は部下に任せ、私は療養・障害・回復期リハビリ病棟の患者さんを診ながら院長職をこなしていました。久しぶりの急性期になりますが、東札幌病院の理念に基づき貢献できればと考えています。皆様のご指導よろしくお願ひいたします。

外科 岩山 祐司

今年の4月より着任しました外科の岩山です。手術治療を必要とするお腹からお尻の病気や、乳がん等の乳房にかかる病気の治療を専門としています。前任地は、同時期に異動してきた長谷川センター長と同じ函館の病院でした。函館市は、皆様ご存じのように全国でも有名な観光都市であり、函館山から見下ろす夜景、桜が開花した時期の五稜郭公園、啄木公園がある海岸線の漁火通りは記憶に残る美しさでした。しかし、新型コロナの影響によって年間数百万人が訪れるこの街が、昨年は嘘のように閑散としており、なんとか今後盛り上がりもらいたいと期待しております。

一方で私はこれまでに木古内町、江差町、羽幌町、滝川市と様々な地域で医療に携わることがで

きました。函館市と同様にそれぞれの勤務地での観光のみならず、地域の方と医療を介したふれあいをすることができたと感じます。しかし患者様の最期のお看取りに至る経過でもう少し違ったことができたのではと思う場面も経験してまいりました。



4月から仕事をはじめて間もないですが、他の病院と比較して東札幌病院における緩和ケアの体系化および、医療スタッフの知識や経験が強化されていると感じております。その中で、私も微力ながら役に立ちたいと考えております。皆様よろしくお願いします。

口腔外科 清水 達哉

はじめまして。本年度から歯科口腔外科に着任いたしました清水達哉と申します。北海道大学歯学部を卒業後、1年間同大学の第一口腔外科で研修医を行いました。その後第一口腔外科の大学院に進学し、1年間病棟外来を経験したのち、3年間基礎研究を行い、今年の3月に大学院を修了いたしました。研究としては、「Osteocytes as main responders to Low Intensity Pulsed Ultrasound for the treatment of fracture healing」というテーマで研究してきました。



話は変わりわたくし事ですが、趣味は小学校から続けてきた野球、ここ数年少しづつ始めたゴルフ、カラオケ、お酒、etc.です。コロナの影響で日々の飲み会や送別会、歓迎会等もなく、カラオケにも行けないのは非常に残念でなりませんが、今はいつか明るい未来が来ることを信じて素々と仕事を邁進したいと思います。着任してまだ日が浅いですが、上司の先生方や歯科衛生士の方々、医師や看護師の方々に助けていただいて、何とかこんとか乗り越えて行けています。特に当科の特徴としては、道内でも特に上下顎の顎変形症の症例は多く、若年者の方はもちろん、かみ合わせに

悩む幅広い年齢層の方々のニーズに対応しています。また、地域の患者さんのため的一般歯科診療はもちろんのこと、がん患者さんの周術期における口腔機能管理や終末期における口腔ケアにも力を入れております。

当院の【医療本質はやさしさにある】という理念を自分も体現できるように、患者さんのみならず、関係者の皆さんに対して、日々思いやりを持って行動したいと思います。当院にて多くのことを学び、歯科医療を通して全身の健康に寄与し、少しでも当院に貢献できるように精進いたしますので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ致します。

気軽に歯科外来に顔を出していくだけるとありがたいです。今後ともよろしくお願ひいたします。

患者さんのご紹介

受診・検査・入院予約につきまして

当院では、他医療機関からのご紹介による患者受診受付を、患者支援部門地域連携室で承っております。

予約・予約変更の電話受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:00 土曜日 9:00～12:00

Tel 011-812-2311 [内線:1459] 011-817-5120 Fax 011-817-5130

ご紹介の流れ

一般外来受診希望者のご紹介

セカンドオピニオン外来、病をよく識る外来(病理相談)を除く

1 ご紹介元医療機関

電話またはFAX【診療予約(一般外来)申込票Word】にて
予約日時、患者受診科を決定

2 東札幌病院地域連携室

東札幌病院受診予約票(Word)、問診票(PDF)を
ご紹介元医療機関にFAX

3 ご紹介元医療機関

患者さんへ紹介状【診療情報提供書(投薬情報を含む)】と
予約票、問診票をお渡し

4 患者さん

予約日時に保険証、紹介状、予約票、問診票などを
持参し、外来受診緩和ケア目的での入院、
外来通院希望者のご紹介

1 ご紹介元医療機関

電話にてご相談

2 東札幌病院地域連携室

受診日を調整(基本的にご相談のお電話中に調整)

3 ご紹介元医療機関

診療情報提供書(処方内容含む)のコピー、
患者情報用紙または看護添書のコピー、
保険証のコピーを当院へFAX

4 患者さん

予約日時に診療情報提供書(処方内容含む)の原本、
患者情報用紙または看護添書、検査画像(直近のもの)および採血データ、
保険証原本、外来問診票を持参し、受診※診療予約(一般外来)申込票、東札幌病院受診予約票、外来問診票、外来外科(肛門科)問診票、外来外科(乳腺)問診票、外来歯科・歯科口腔外科問診票は、当院ホームページでダウンロードできます。
<https://www.hsh.or.jp/medical-personnel/>※外来問診票は、「患者のみ受診」もしくは「患者と家族が受診」する場合は患者用の外来問診票を、「家族のみ受診」する場合は家族用の外来問診票をご持参ください。
※入院・転院患者情報用紙、外来問診票(患者用・家族用)は当院ホームページでダウンロードできます。
<https://www.hsh.or.jp/medical-personnel/>
※保険診療となります。診断群分類別包括制度(DPC)の場合など、医事課あての連絡文書をお願いします。

当院では、適切な説明のもとに、受診される方の意志が尊重され、最良の治療やケアが選択されるよう努力しております。

患者さん・ご家族の皆様と緩和ケアの方針に齟齬が生まれないよう、可能な限りご説明に関わる情報についてご提供いただきますようお願い申し上げます。

関連施設のご紹介

厚別老人保健施設 ディ・グリューネン
〒004-0007 札幌市厚別区厚別町下野幌38番18
TEL:011-898-5580 FAX:011-898-6760指定居宅介護支援事業所 ディ・グリューネン
〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条1丁目12番28号
長谷川第2ビル 2階
TEL:011-807-5156 FAX:011-807-5157ヘルパーステーション 東札幌
〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35
TEL:011-841-1129 FAX:011-812-2533指定居宅介護支援事業所 東札幌
〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35
TEL:011-812-2500 FAX:011-812-2533訪問看護ステーション 東札幌
〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35
TEL:011-812-2600 FAX:011-812-2605訪問看護ステーション みずほ
〒004-0007 札幌市厚別区厚別町下野幌38番18
TEL:011-898-8085 FAX:011-898-8086在宅療養支援診療所 ヘルスケアクリニック光
〒003-0024 札幌市白石区本郷通11丁目南3番26号
TEL:011-860-1043 FAX:011-860-1044札幌市白石区 第2地域包括支援センター
〒003-0003 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番25
(株)シバビル 5階
TEL:011-837-6800 FAX:011-837-6801介護予防センターもみじ台
〒004-0007 札幌市厚別区厚別町下野幌38番18
TEL:011-898-8660 FAX:011-898-6760

医療法人 東札幌病院

〒003-8585
札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35
TEL:011-812-2311 FAX:011-823-9552
<https://www.hsh.or.jp/>

患者支援部 FAX:011-817-5130(直通)

医療関係者様用 ご紹介専用電話

TEL 011-817-5120

発行責任者: 医療法人東札幌病院 患者支援部
(編集責任者: 病院長 西山 正彦)

発行